

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画検討委員会
開 催 日 時	平成25年12月13日（金） 開会：午前10時 閉会：午後0時10分
開 催 場 所	行田市産業文化会館2階 2A会議室
出席者(委員) 氏 名	田尻要 桑田仁 佐野友昭 宮本伸子 朽木宏 沖本孝之 並木政夫 (名簿順・敬称略)
欠席者(委員) 氏 名	横田康介 富岡誠 (名簿順・敬称略)
事務局・担当課	【企画政策課】岩田政策推進幹 田島主任 【文化財保護課】中島課長 【都市計画課】栗原課長 加藤主幹 金子主査 金古主任
会 議 内 容	議 事 (1) まち並みづくりとにぎわい創出の方針について（資料①） (2) 景観まちづくりワークショップ結果について（資料②） (3) モデル地区の方針について（資料③）
会 議 資 料	(資料名・概要等) ・ 次第 ・ 行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画検討委員会名簿 ・ 資料①：まち並みづくりとにぎわい創出の方針 ・ 資料②：景観まちづくりワークショップ結果 ・ 資料③：モデル地区の方針について ・ 参考資料：検討委員会・ワーキング委員会の開催日程及び検討内容 ・ 行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画検討委員会説明資料 ・ 施策体系
そ の 他 必 要 事 項	傍聴人3名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
宮本委員	1 開 会 ・森田委員から横田委員へ委員変更の報告 2 あいさつ ・田尻委員長あいさつ 3 議 事 （１）まち並みづくりとにぎわい創出の方針について ■ 資料①を用いて事務局より説明 ・冒頭から辛口の意見であるが、この計画はハード寄りになりすぎてはいないか。前回、街中の方々が様々な活動に取り組んでおり、商工会議所や青年会議所など組織立っている団体や、そうではない団体、新しい取り組みを行っている団体や、昔から営々と伝統的な取り組みを行っている団体等が重層的に活動し、成り立っている事が行田らしいと述べたが、その辺りの人の顔があまり見えて来ていない。これではにぎわいには繋がらないと思う。にぎわいを創出する際、外からお客さんを呼び込む事は大事な要素ではあるが、外からのお客さんがなぜ来訪するかというと、そこにいる方々の生活や取り組みに魅力が無いと回遊せずに帰ってしまうだけになる。昨今は、観光形態が随分変わってきており、聞いた話だと、従来の団体で来訪し見物する観光は減少傾向にあり、現在はバスで沢山の方が来訪したとしても、街の中を分散して自由行動で散策したり、小さなグループや家族で行動する形態が増加しているとのことだった。これに対して、この方々を受け入れる行田のまちとして今後どのように考えていくのかというと、バリアフリーなどハード面の整備ももちろん必要であるが、人がどのように暮らしているか、来訪者をどのようにもてなすか、というソフト面が見えてこない事が大変残念である。例えば資料の P 5 から P 9 において「取組みの方向」で使用している写真を、祭り等の活動の写真にするなどメリハリをつけていかないと、本計画と都市計画マスタープランとの差異が見えず、更にその中で、まちを発展

事務局（金子）	させるための取組みが見えてこないことから、その点をもう少し検討いただきたい。 もう一点、行田らしい「まち並みづくり」と「にぎわい創出」ということで、何を目標にしていくのか煮詰めていった方が良いのではないかと。私は13年間行田市近辺に住んでいるが、行田は大量の来訪者を捌くような街では無く、その点を進めていこうとしても、市民が疲弊するだけで、あまりプラスには繋がらないと思う。それよりは奥座敷の様な、裏に利根川を控え、奥まったこの土地の昔からの歴史の積み重ねをゆっくり、且つじっくりと楽しんでもらう様に位置付けしたほうが良いのではないかと。沢山の来訪者が一気に訪れるのではなく、常時人が来訪し、街中を散策してもらうことでにぎわいにつなげる方が行田の街の構造に適していると考えられる。 ・宮本委員の意見はもっともであり、基本的なスタンスは同一であると考えている。都市計画マスタープランにも記載したが、まちづくりの主役は人であって、人々の活動や交流が重要となり、更に住民が住みやすい街というのは来訪された方にも満足できる場所であるというスタンスは持ち合わせている。先ほどの説明の中でも触れさせていただいたが、今まではハード的な面が主眼に置かれており、人々の交流や活動という面が足りなかった部分があった。そうした中で、今回の位置付けは、人々の活動を積極的に取り入れ、市民活動も主眼に入れながら計画を取りまとめて行きたいと考えている。また、今回は資料の見せ方に不十分な箇所があった。例えば、P3の『「行田らしい」まち並みづくりの方針』の中で、方針①と方針②は主にハード面を、方針③は人々の活動という事で主にソフト面を整理させて頂いている。単純に規制やルールという景観形成ではなく、市民が主体的にまちづくりやまち並みづくりに取り組む事が重要であると考えている。こうした見せ方を宮本委員の指摘に沿って、もう少しソフト面を充実させた見せ方に組み替え、更には目標なども示していきたいと思う。
---------	---

田尻委員長	・ 行田らしい静かなにぎわいという点については、私も同意見で、市民レベルのおもてなしという点に関して、私が参加している別の委員会に市民活動推進委員会というものがあるが、行田は総じて市民活動がとても盛んな場所であり、その方々の活動を地域の元気と活性化に引き上げて行くにはどうしたら良いのか、今後は検討する必要があると考えている。活動をされている方々はとても熱心で、良い方向に向かっているのだが、それが地域全体のにぎわいにベクトルが向いているのかというと、必ずしもそこまで目がいっていないことが見受けられる。今後、地域の皆さんの活動がどのように役立ち、地域のにぎわいに繋がっていくか、一緒になって考えて行く必要があると思う。
事務局（栗原）	・ この件について、委員の皆さんに議論して頂きたい、事務局からもお願いする。
桑田委員	・ 宮本委員の意見に同意する。例えば、中高生はどこに集まり遊んでいるのか、子育て世代の方々はどこに集まっているのか基礎資料を持ち合わせておらず不明だが、既存の良い場所の魅力をより高めていくという事も重要であって、作るのではなく、阻害要因を取り除いていくという発想でも良いと思う。見せ方のせいか、引っ張ろうという意図は感じるが、人を呼び込むのではなく、上手く背中を押すことで、自然のにぎわいに繋がるかと思う。また景観資源に加え、人の集まり方の活かし方が見えなかったため、この点が具体的に見えてくると良いと思う。
田尻委員長	・ 特に、阻害するものは無いと思う。皆さん、熱心に活動されているが、活動する事が活動目的になっており、それが外部に及ぼす影響だとか、地域の元気に繋げるために、どのような取り組みを行えば良いのかという事を示してあげる事が良いのではないかと思う。
桑田委員	・ 具体的なイメージとして、大阪では川沿いの空間に中高生がダンスの練習で集まっており、当初はそのような利用は意図していなかったと思われるが、集まりたいというニーズが潜在的にあったと思われる。空き店舗の活用にとっても様々なハードル

	があると思うが、ハードルを一つずつ下げて行く活動を計画内で位置付けてはどうか。
田尻委員長	・ 阻害要因ではなく、ハードルならば間違いなく存在する。それをどう解消していくべきか、具体的な落とし込みについては今後、考えていかななくてはならないと思う。また、中高生がどこに集まっているかという、基本的に行田市に中高生はたくさんはいないが、若手の市民活動をされている方で演劇など芸術活動を通して若者の自意識を育てる等、高校生と一緒に活動している団体もあり、このような動きを我々が後押ししていかなければならないが、まちづくりの発露となる取り組みにまでは繋がっていないのが現状である。
朽木委員	・ 中高生は部活動等を行っている為、あまり集まったりはしていないと思う。
事務局（金子）	・ 休日は自宅で過ごす中高生が多いと思う。
事務局（中島）	・ 塾通いの子が多く、塾が終わってその場で集まっている子は多いと思う。また、子育て中の方などは、コミュニティセンターを利用している方が多くいる。
桑田委員	・ 子育て中と言っても、子供の年齢によって集まる場所は異なると思われるが、その辺りはいかがなのか。
事務局（中島）	・ 水城公園のような広い空間は子育てをする親から見ると非常に良い空間で、小さい子は広場や公園で遊び、少し大きくなるとコミュニティセンターで遊ぶなど、広い空間を上手に使い分けられているといえる。
事務局（金子）	・ 土日は、野球やサッカー、バスケットボールなどのスポーツを行う事で子ども達の繋がりも形成され、父兄間の繋がりも形成されている。
桑田委員	・ 部活動を行っていない子もあり、そのような子たちが集まれる場があると暮らしやすさに繋がるのではないかと思います。どの街でもこのような場所は表に見えてこないものだが、そうした場所が見えてくると良いと思う。
事務局（中島）	・ 中高生よりは上の世代になるかもしれないが、近年喫茶店が増

宮本委員	えてきており、喫茶店の起業者は若い起業者が多いことから、若い方が集まってきている。そういう意味ではそれぞれの世代、世代ごとの居場所ではなく、世代間交流が出来る場所があることが望ましいと考える。 ・中高生の頃までに学校だけでない周りとの繋がりが構築されていると行田に残ってくれる、また一旦出ていっても戻って来てくれる可能性が高まる。やはり、密度が低い生活を送ってしまうと、どこへ行っても構わなくなってしまうため、これからの人を育てていくにはこの辺りが重要となってくるのではないかと。
田尻委員長	・宮本委員の意見に同意であり、高校生になると活動範囲や仲間が変化するため、中学生までに地域愛をいかに育むかということが重要になると思われる。５～６年前にまちづくり教育がどの程度なされているか実態調査を行ったが、歴史等は教科書で習うが、地域について考えることは時間的な余裕が無いからかもしれないが行われておらず、取り組んでいるのかもしれないが、取り組まれているという意識にまでは結びついていないと思われるので、何らかの形で改善していけたらと思う。
事務局（中島）	・行田は小学３・４年生を対象に郷土の資料を出しており、そこには地域を支えている方々の活動も盛り込まれている。社会科教諭の研修内容でもそのような項目があることから、学校としても、単純に郷土を教えるのではなく、郷土が今どのような人たちによって支えられ、今後どう発展していくのかという事も教えつつあるという事も認識していただきたい。
佐野委員	・私たちの世代は両親が共働きで、平日は家に居らず、休日になると子供を連れて市外へ遊びに行ったり、日用雑貨以外の買い物も他地域へ出向くなど、行田で回遊する場所が無いという実情がある。また、他団体との交流を通じて、行田のＮＰＯは年配の方が多く、若い方の活動が見えて来ない感じがする。小さな活動を、年配の方の活動と結び付けて行われると良いと思う。
桑田委員	・行田で育ち、一旦外に出たが子育てを含め戻って来られた方は、

事務局（岩田）	何に魅力を感じ戻って来られたのか、教えてほしい。 ・本市は人口減少が顕著であることから、定住促進対策に力を入れて取り組んでおり、その一環で転出者や転入者にアンケートを実施したところ、戻って来られた方の意見として、親元の近くに居住したいという意見が最も多くあった。転出される方についても、行田の環境を伺ったところ、自然が豊かで落ち着いた街という意見が非常に多くあった。一方、20～40代の方の人口移動が最も多く、大規模商業施設等が無く、活気が無いという意見もあった。
事務局（中島）	・従来より、行田は商店街に関して魅力が無いと認識されていた。行田市史の編さんをしている中で、既に昭和35年の新聞に「閑古鳥が鳴く行田の商店街」という記事があった。行田は日用品を買うには良い場所であるが、それ以外の品物を購入する場合は熊谷へ向かうという事がその当時からあった。しかし、直接人口減少に繋がっている訳ではなく、バブルの際に繊維産業が破綻し、就職先が無いという事が関係していると考えられる。
佐野委員	・方針の中で環境整備やハード面の整備が主眼に置かれているが、維持管理の面にもぎわいの創出やまち並みを作っていく中で重要となると考えられる。実際、河川や水路は、水質や匂いの改善が必要であり、その点を視野に入れていないと、折角ハードを整備しても、にぎわいの形成が出来ないと思う。
事務局（金子）	・単に作るだけでなく、保全、活用するという点が非常に重要である。現在、川のまるごと再生事業に取り組んでおり、整備だけでなく維持管理などの継続性も重要となることから、どのように地域の皆様と連携を図りながら管理していくのかという議論も進めている。この計画においても、ものを作るだけでなく、使っていくという事が重要となってくるため、そのような視点も含めて整理していきたいと考えている。
朽木委員	・P2の「“行田らしい”風土を活かした、にぎわいにつなげるまちづくり」というキャッチコピーであるが、内容を見ると単純に文化と言っても良いのではないかな。風土という言葉から受け

事務局（金子）	る印象は気候などであるため、文化に置き換えた方が分かりやすく良いのではないか。 ・ 風土という言葉は、一つは地形や気候等の意味合いであり、もう一つは活動や気風等の意味合いも総称して含んでいるが、今後、表現に関しては検討する。
田尻委員長	採決 ・ 他に質疑がなければ、ただいまの意見を踏まえ、一部内容を修正し、計画書に反映していく。 （２）市民アンケート調査結果について （３）モデル地区の方針について
佐野委員	■ 資料②、③を用いて事務局より一括して説明 ・ 資料③のＰ５（２）方針ごとの施策体系（案）において、「景観形成に関するルールづくり」が方針１から３の全てに記載されているが、現在考えている目標があれば教えていただきたい。
事務局（金子）	・ 昨年、都市計画マスタープランを作成し、その中で景観条例の制定を位置付けたが、景観に対する意識がアンケート調査等の結果で「低い」という結果が表れたことは、我々としても情報発信に不足していた点があったと言える。景観条例等、景観に対する規制は様々あるが、いきなり規制を行う事は難しく、むしろ、どうしたら気運を高められるかという、地域の皆様と協働してまち並みを作っていくという事であると考えている。この計画ではモデル地区を定め、ここを成功事例として、その他の地域に動きを波及させ、市全体の機運を高めていきたいという考えである。目指すところは景観条例の制定になるが、現時点では事業者や市民の意識の醸成を図り、来年度以降も引き続きこのモデル地区で同様の取り組みを行い、今後に繋げていきたいと考えている。
佐野委員	・ 景観条例の策定や実施に関しては、地域の協働が重要となってくると思う。商店街の景観整備において、お金を出せば行いますよという方ももしかしたらいるかもしれないが、それでは何

	も得られず、市民参加のまちづくりとは異なるニュアンスになってしまうと思う。朽木委員に伺うが、足袋蔵等の活用に関して、現在のまち並みに足袋蔵があるのが良い景観なのか、もしくは、まち並みを足袋蔵等に合わせた方が良い景観なのか、お聞きしたい。
朽木委員	・ 個人的な見解だが、現状の継承されてきたこのまち並みが行田の文化であり、行田特有なのであるため、何も新しいものを作っ てはいけないということは無いと思う。しかし、古いものは壊されていく傾向にあり、これを残していくことが我々の活動の一端となっている。彦根もキャッスルストリートとして映画のセットのようなまち並みに作り替えたりしており、九州においても昭和のまち並みに揃えた例があるが、これらは各地域の文化に合わせて行えばよいことであり、行田はそこまでの予算も力も無く、皆さんとの意識の共有を図りながら、必要なら行えばよいのかと思う。
佐野委員	・ これには答えは無いと思われるので、ワークショップ等を行いながら考えていただきたい。個人的には、これからのまち並みを考えていく上で、電柱の取扱いが重要だと思われるため、電柱に関しても何かしらの方策を盛り込んでいただきたい。
桑田委員	・ 具体的に現在考えている文化財の保全及び活用の方策を教えてください。
宮本委員	・ 文化財保護審議委員会からの参画である私から報告させていただくが、行田市では歴史的建築物について長く調査を行い、情報を発信してきている。昨年、県で調査を行ったが、今年から始まったふるさとづくり事業に繋がっている。ただハードだけでなくソフト面も支援いただきたいと思う。文化財保護審議委員会においても、約１０棟を景観的及び歴史的に重要であると位置付けたところであり、今後は市民の皆さんが活用等を検討していただければと思う。
桑田委員	・ 杉並区で所有者の方に意見を伺うと、建物の維持管理の問題もあるが、落ち葉の清掃等の緑管理も重要な点であり、お金でな

宮本委員	くこのようなサポートが必要である。建物だけでなく、周辺の環境の整備や管理も考えて行く必要がある。 ・細かい事を申し上げるが、方針において文言は重要であるため、文章の精査をしていただきたい。例えば、資料③のP 3の方針1に「歴史と文化が漂う～」とあるが、これだと歴史そのものが漂うことなり、「歴史と文化の香りが漂う～」等に変えた方が良いと思う。また、方針2においても、水と緑そのものがうるおうのでは無く、「水と緑がうるおいをもたらす～」とした方がよいと思う。
佐野委員	・ライトアップが案にあるが、先日古代蓮の里にライトアップを見に行ったが、売店が殆ど営業しておらず、残念に思った。もっと地域の品物を売る機会を盛り込んでいただきたいと思う。空き店舗に関しては現在、賃料の補助等が行われているが、更にどのような取組みを行っていくのか教えていただきたい。
事務局（岩田）	・現在、企業家支援事業として、空き店舗を活用し起業しようとしている方に対しては家賃補助や改修費等の補助を行っている。先の議題で意見のあった、ハードルを下げるという部分について、店舗併用住宅であるため活用しにくい部分もあり、所有者の方の理解を得られているものに関しては企業家支援を行っていき、空き店舗等の活用は新たな施策として積極的に取り組んでいきたい。
事務局（中島）	・商店街においては、青年会議所や商工会議所の協力が必要となる。どのようにすれば、ハードルを下げられるのかという社会実験を商工会議所等が行い、方向性を示していただければ良いのかと思う。
事務局（栗原）	・昨年から古代蓮の里のイルミネーションを行っているが、出店者を募ったところ、12月24日から1社が出店する事となった。
沖本委員	・資料①に地域資源という言葉があるが、この定義を教えてください。地域資源の中でJR行田駅と秩父鉄道行田市駅があるが、歴史的資源などと並列にならず、違和感があるように思

	える。ＪＲ行田駅と秩父鉄道行田市駅は人の動きという意味でのものであり、滞留を目的としたり、景観の目的にするのは少し異なると思われ、他資源についてはそれを核としたまちづくりを進め、駅についてはその周辺という括りになっているため、扱いを教えていただきたい。
事務局（金子）	・ここでは地域資源を、市内に多数存在する歴史的資源、文化的資源、自然資源をまとめた総称という形で示している。従って、ＪＲ行田駅等も市内にある資源として捉えている。
事務局（中島）	・先ほど、資源にならないのではないかという意見もあったが、捉え方は様々で、駅はただ通過するだけでなく、人々が集まり活動を行う場にもなり得るため、ここに挙げているのは、このような場になり得るという事を表している。
沖本委員	・文章の中に他の歴史的資源とは異なり、駅が今の街中の溜まり場を作れる資源であるという事を示していただきたい。
並木委員	・１１月に行田・加須・羽生を巡るモニターツアーを県で実施し、１０代から８０代の方に参加して頂き、観光アンケートを行った。行田市では蔵巡りや、藍染体験や甲冑隊の演舞を見るといった２時間半のコースだったが概ね好評で、その中で７５％の方は足袋蔵があることを知らなかったと答えており、またゆっくり訪れたいという意見をいただいた。また、国道１２５号の童・銅人形を非常に気に入っている方もおり、１日遊べる所であるという意見も多く、自信を持って取り組んでいただきたい。
田尻委員長	・来れば分かる行田の良さということで、問題は訪れていただくまでであり、今後このような点を考慮していく必要がある。また、滞留する空間の少なさや情報発信が課題である。
宮本委員	・情報発信について、ブログやフェイスブック等情報発信の手段は様々あるので、発信の方法も考えていく必要があると思うが、市では何か実施しているのか。
事務局（金子）	・ツイッターを実施している。
	採決
田尻委員長	・他に質疑がなければ、ただいまの意見を踏まえ、一部内容を修

正し、計画書に反映していく。

審議終了

4 その他

- ・事務局より追加開催及び次回開催日程について事務連絡

【追加開催】（第4回検討委員会）

日時：平成26年1月21日（火）午後1時30分から

場所：行田市産業文化会館2階 2A会議室

【次回開催日程】（第3回検討委員会）

日時：平成25年12月13日（金）午前10時から、

場所：行田市産業文化会館2階 第2会議室

5 閉 会